

令和3年2月教育長定例記者会見

【質疑応答】

《県立高等学校の再編整備について》

R C C 先月ですね、県立〔高等〕学校、呉昭和高〔等学〕校と安芸高〔等学〕校が生徒募集〔停止〕を決めて、廃校に向けて今、県議会とも調整が進んでいるということだったんですけども、呉昭和高〔等学〕校の方では、OB会が立ち上がって、署名活動とかそういった活動がされているんですが、改めて、そういったOBですとか、地域の方々にですね、県教育委員会の方から説明の場を設けたり、そういった今後のことについて何かいかがでしょうか。

教育長 この度の両校の生徒募集の停止につきましては、これまで両校の在校生の皆さん、あるいは学校を支えていただきました皆様方のことを考えますと、大変申し訳ない思いがございます。一方で、一定の学校規模を確保いたしまして、高等学校教育の質的な水準を維持・向上する観点から学校規模の適正化に取り組んでいく必要があることから、今回苦渋の決断をしたところでございます。今後、両校につきましては、現在在籍している生徒、それからこの春に入学する生徒が卒業まで充実した高校生活を送れるようにですね、十分な支援をしていきたいと思っております。

R C C この署名活動が行われていることについて、教育長自身はどうお考えですか。

教育長 様々な御意見があることは承知をしております。今、署名〔活動〕をされているということでございますけれども、いずれにいたしましても、今後、この2月の定例県議会におきまして適切な議決がいただけますように、まずは議員の皆様方にこの度の再編整備の趣旨等について説明をし尽くしてまいりたいと考えております。

《教員採用試験の志願者倍率について》

中国新聞 〔20〕19年度の小学校教員採用試験でですね、〔競争率の〕全国の統計が出まして、広島県・広島市がですね、全国で〔競争率が〕4番目の低いという結果になったんですけども、それについて分析ですとか、受け止めがあれば教えていただけないかと思えます。

教育長 今日、教育委員会会議がありましたので、教職員課長の方から御説明申し上げます。

教職員課長 はい。実際に志願者の減少、志願倍率の低下ということは、全国的な傾向でもあって、広島県に限らず教員の希望自体が減少していると言われているところでございます。その中で、広島県においては、昨夏の採用試験においてはですね、志願者数は増加をしているところではありますが、長期的な減少傾向に歯止めがかかったとは軽々には判断はできませんけれども、教職の魅力を発信していくという部分については、できていると思っております。採用について言いますと、実際には新卒の学生の志願状況というのは、例えば10年前に比べると減ってはいない、というところでございます。しかしながら、全国的にも採用数を、大量退職に伴って、必要な教員数というのは増えていて、実際に採用するというのはどこ〔の都道府県〕も増やしている、取り合いになっている。そういうところで既卒者が合格して、結果として志願者数は減っているという状況が生じているというところでございます。そういった中で、一定程度やはり教員養成系〔大学〕でしっかりと免許を取って、キャッチしているという部分も含めて、しっかりと大学等と連携しながら、なかなか量〔を増やす〕というところにはいかないかもしれないけれども、優秀な教員を1人でも多く、一緒に大学と連携しながら育てて、採用していきたいと考えているところでございます。

《小学校における教科担任制導入について》

中国新聞 先ほどと若干関連してくるんですけども、今度、小学校5・6年生で教科担任制を〔20〕

22 年度を目途に本格導入されるということになりつつあるんですけども、こちらについての受け止めですとか、評価、課題などがあれば教えてください。

教 育 長 先ほどの御質問で〔教員採用に係る〕倍率が〔低下している〕というお話がございましたけど、今、広島県教育委員会におきましては、臨〔時的〕任〔用職員〕から正規職員の方に比率を高くするという事で、採用につきましては、計画的にですね、今やっているところでございます。そのせいで、一つは採用数が増えているということがございます。それとプラス、この教科担任制という形がございしますが、これにつきましても、国の方とはしっかり連携をさせていただいております、〔教科担任制が実現した場合に、状況によっては、教員採用〕計画にプラスしてですね、採用数を一定数確保できるように今、計画を練っているところです。これにはやはり広島県の教育が、やはり魅力的で、他県で働くよりも広島県で働きたいというような先生方に魅力を発信していかなければならないと思っておりますので、私も率先してPRに努めていきたいなと思っております。